

SSH事業の概要

将来、国際的に活躍する科学技術人材の育成を目的に、平成14年度から実施(20年目)。令和3年度現在、218校を指定。

これまでの成果

優れた科学技術人材の輩出 / 高等学校学習指導要領に科目「理数探究基礎」「理数探究」を新設(共通教科「理数」)など

検討の背景

- 管理機関・SSH指定校から、国や管理機関の支援の充実を求める要望
(例)他校との交流の機会、情報提供、自走化のための制度の創設、地理的要因による取組の制約の解消など
- 令和元年度予算執行調査における指摘事項 ・評価基準設定、普及促進、財政支援からの自立を促す仕組みの実装

有識者会議において、**事業成果の最大化を図るため、SSH事業の目指すべき方向性、国が取り組むべき方策について検討**

文部科学省が取り組むべき主な方策

現状・課題

- 国・教育委員会等・SSH指定校の間で指定期数ごとに目指す姿を共有
- 科学技術人材育成強化のため優れた人材の層を充実
- 事業全体の成果の客観的検証の強化
- SSH指定校の取組改善のための情報提供の充実強化
- 予算支援終了後もSSHの活動を継続可能にする仕組みの構築
- 成果の普及・展開の強化
- 地理的・時間的な制約を超えた他校との交流の充実・強化
- 一部のSSH指定校で研究の安全性や公正性確保に課題

取り組むべき方策

- 指定期数ごとに目指す姿を具体化(別紙1参照)
- 卓越した取組を行う長期指定校を支援
- SSH指定校における卒業生の追跡調査を義務化
- モデルとなる「実践事例集」や「卒業生 活躍事例集」の作成
- 「認定枠」を創設し、予算支援終了後もSSH活動の継続を可能に(別紙2参照)
- 「認定枠」の成果普及・展開に係る取組に対し重点枠による予算支援
- オンライン等の活用により学校間のネットワークを更に強化(重点枠の「広域連携」と「海外連携」を活用)
- 研究の安全性や公正性確保に係る指導の参考となる情報の提供

リーディング期

V期～

科学技術人材育成システム改革を先導する役割

卓越した研究開発を通じて、科学技術人材育成システム改革を先導。

V期目は、IV期までとは異なる枠組みであり、指定校は、科学技術人材育成におけるシステム上の課題を自ら設定し、当該課題に挑戦する意欲的な研究開発を実施することで科学技術人材育成システム改革を先導する。

IV期

深化と精選：確立した取組をベースに強みを伸ばす一方、取組を精選

Ⅲ期までの取組を基にして、域内外に波及するような取組を確立するとともに、これまで築いてきた強みを恒常化。

Ⅲ期

特色と変革：自らの強み等を確立し一段高い研究開発

I・Ⅱ期までの取組をベースとしながら、自らの強みや、教科間連携、学校全体での組織的な指導体制等を確立した上で、一段高い研究開発を行い、域内における科学技術人材育成の取組を促進。

Ⅲ期目以降は、中間評価の結果も踏まえて更なる特色づくりやI・Ⅱ期以上の取組の進化の可能性が認められる場合に限り指定。

Ⅱ期

安定と特色：学校全体で組織的に研究開発等に取り組む体制等を構築

I期目からの取組を踏まえ、他教科を含めた学校全体として組織的に研究開発等に取り組む体制等を構築。

創成期

I期

開発と安定：コアとなるカリキュラムや取組の実施、SSH型学校経営の実施

自立

一定のSSHの実績を有する学校を「認定枠（仮）」として指定。
科学技術人材育成のモデルとして、これまでの研究開発の成果を基にした多様な実践活動を普及・展開。

背景

OSSH事業は、先進的な理数系教育を通じた国際的に活躍する科学技術人材の育成を目的として、平成14年より事業を開始し、一定の成果を上げている。事業開始から約20年が経過しており、多様な取組が各指定校で展開されている。

OSSH指定校としての長年の活動の成果をもとに、これまでのノウハウや特色・強みを活かし、一定の指定期間を終了した後、独自にSSH指定校の取組の自立した継続を検討している学校が出始めていることから、従来の予算支援の取組とは別に、新たに「認定枠（仮）」を創設し、科学技術人材育成のモデルとしてこれまでの研究開発の成果を基にした多様な実践活動を**展開・普及**することを通じて、「事業枠」と共に、**SSH事業全体の取組の質の向上**を図り、**科学技術人材育成システム改革をより強力に推進**する。



事業枠(予算支援あり)

我が国の次代を担う

科学技術人材育成システム改革を先導

- ◆ 産学官の連携等による質の高い課題研究を教育課程の中核に据えて推進するシステムの**開発**
- ◆ 拠点校として、周辺校と緊密に連携しながら、地域全体の科学技術人材育成をリードするシステムの**開発**
- ◆ 複数の国の高等学校や大学、企業等と連携した国際共同研究を通じた人材育成システムの**開発** など



認定枠

科学技術人材育成の全国的なモデルとして
これまでの研究開発の成果を基にした
多様な実践活動を**展開・普及**

- ◆ 各指定校が培ってきた特色・強みを生かした取組を**展開・普及**※積極的な情報発信、視察の受入れ等
- ◆ 「SSH指定校」としての**認知度・ブランド**を活用
※対象校：一定期数以上のSSHの実績のある学校
※教育課程の特例への申請は可
※制度の運用は、令和4年度以降を想定



SSH指定校としての取組・体制等の実施・確立

- ◆ 科学的な探究活動の中核とする理数系に重点を置いたカリキュラムや取組の実施
- ◆ 自校の特色や強みを培いながら、学校全体として組織的に研究開発等に取り組む体制を確立



全国各地域において、両者が連携し、SSH事業の取組を展開一般校を含め、高等学校全体の**理数系教育の充実**やSTEAM教育等の**探究力の育成**を後押し

SSH事業全体を活性化するとともに、科学技術人材育成システム改革を強力に推進